

# カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成29年2月24日
主管学校名	愛媛大学附属高等学校
PTA会長名	山本 修平

実施概要	主管校	愛媛大学附属高等学校	
	交流校	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	
	実施活動名	「みかんの家」交流作業	
	実施日時	平成29年2月19日(日)	
	実施場所	愛媛大学教育学部附属特別支援学校 日常生活訓練棟「みかんの家」	
	実施目的	愛媛大学附属特別支援学校にある農園整備を、特別支援学校のPTA及び児童・生徒と、本校PTA会員・生徒が協力して行い、交流活動を通じて、特別支援教育に対する理解や啓発を図るとともに、両校PTA会員同士の親睦を深める。	
	実施内容	① 農園周辺の溝掃除 ② 山桃の木の手入れ ③ 農園の手入れ ④ 豚汁作り	
	実施方法	両校の保護者・教員・生徒・児童を4班に分け、作業交流を行う。作業終了後、全員で昼食をとりながら、交流を深める。	
参加人数	本校PTA会員及び交流希望生徒・教職員	計	33名
	特別支援学校PTA会員及び児童・生徒・教職員	計	69名
	マイスター倶楽部代表	計	3名

報告事項	内容	<p>10:00 「みかんの家」集合 対面式 作業分担          10:15～ 作業交流（①農園周辺の溝掃除 ②山桃の木の手入れ ③農園の手入れ ④豚汁作り）          12:00～昼食をとりながら交流          13:00 解散</p>
	結果	<p>当初、予定していた5日は雨天のため延期になったが、19日には天候にも恵まれ、よい交流活動ができた。対面式を行った後、特別支援学校の生徒・児童と本校生徒は自己紹介をした後、4つの班に分かれ、作業に取り組んだ。保護者の方々や教職員は、両校の生徒・児童の交流がうまく進められるようにサポートした。2時間程度の作業の後は、参加者全員で昼食を共にした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">山桃の木の手入れ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">溝掃除の様子</p>



交流の様子



参加者集合写真

所感

当初は遠慮がちだった生徒たちも、作業を進めるうちに、上手くコミュニケーションもとれるようになり、昼食時には当初あった距離感もなくなり、お互いの理解を深めることができていた。運動会や文化祭などの機会を通じて、両校の交流は行われているが、年に一度のこの交流作業を楽しみにしている者も多く、大変人気のある行事である。昨年比べ、今年は男子生徒の積極的な参加もあり、力仕事もある程度こなせたと思う。来年度は保護者にも参加をもっと呼びかけたいと考えている。

添付書類

参加感想・収支決算書・領収書

## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成29年2月24日
学校名	愛媛大学附属高等学校
学年	1年生

・「みかんの家」では、学ぶことや、驚くことがたくさんありました。まず、特別支援学校の方と作業をしました。とても一生懸命にやっていて、手伝ってとても楽しかったです。その後は、豚汁とお弁当を食べました。作業をした後に食べるものはいつも以上においしかったです。私がこの交流活動をして一番思ったことは、特別支援学校の方はみんな挨拶の元気が良いということです。「こんにちは」や「いただきます」、「ありがとうございます」など私たち以上に声が出ていて見習わないといけないなと思いました。今まで特別支援学校の方と今回みたいに一緒に活動する機会がなかったけれど、関わってみると障害など全く関係なく純粋な心を持っていて、良い人ばかりだなと思いました。これからもこのような活動する機会があれば、また参加したいです。

・私は今回の交流活動に参加して、特別支援学校の生徒と深く関わることができました。普段、なかなか接することができない人たちと、「みかんの家」の作業をしていく上で、いろいろな発見や驚きがありました。例えば、一人ですごく熱心に働いていたり、特別支援の先生が生徒に対する接し方です。ある男の子が木の枝を運ぶ仕事で何往復もしてくれていたのが、強く印象に残っています。特別支援学校の先生はその生徒のことをとてもよく理解していて、一人一人にそれぞれ違った対応していてすごいなと思いました。この交流の経験はとても貴重なものになりました。今後の生活に生かしていきたいし、また、交流会があれば参加したいと思います。

・今回、特別支援学校の方々と交流を、様々なことを感じました。先生が前であいさつをきちんと大きな声で返していたり、積極的に木を切ったり、枝を切る作業を手伝ってくれて、優しい方々ばかりでした。今まで特別支援学校の方と接する機会がなかったので、いい経験になりました。また、今後社会に出たときに、障害を持った方と話す機会があると思うので、この経験を活かしていきたいと思います。

・今回が初めての参加で、どんな作業をするか、そんなにすぐに打ち解けられるのかと不安もありましたが、現地に行くとすぐにその不安はなくなりました。みかんの家の施設の方ももちろんですが、生徒の皆さんもみな温かい方ばかりで、不慣れな私を優しく受け入れて下さいました。私の作業の役割は枝を切って運ぶというものでしたが、自分なりに精一杯作業し、その中でも高校生ではない方々との交流を意識して行いました。その後の昼食の時間では、私の座ったテーブルには私しか高校生がおらず、最初のうちは人見知りということもあり、あまり話もせず、あいづちをうったり、笑ったりするだけでしたが、最終的には帰る際に「またね!」とハイタッチをして別れるほどまで距離を縮められました。これは今回参加して一番嬉しかったことです。機会があればもっと参加していこうと思いました。来年も是非行きたいです。

・今回、みかんの家に行って特別支援の生徒さんと交流するというとても良い体験をすることができました。山で作業する時に、特別支援の人と同じことをすることで、より絆が深まった気がしました。普段の生活や学校の授業の「地域の産業」では、決してすることができない、とても良い体験をすることができました。この良い経験をいかして今後の交流活動にも参加したいと思います。豚汁もおいしくいただくことができ、食事中も特別支援の副校長先生をはじめ、多くの先生方、保護者の方、特別支援の生徒の方と楽しくお話ができて良かったです。

・みかんの家の方たちは、とても温かくとても良い一日でした。みんなで力を合わせて何かをするということは、とても気持ちの良いことだと実感できてよかったです。豚汁はとてもおいしく、疲れもふっとびました。一日という短い時間の中で、同じ作業をした子たちの性格もわかってよかったです。みんなで一生懸命作業をして、良い経験になりました。

・友達の勧めで、今回のこの活動に参加することとなりました。年に一度しかない特別支援学校の生徒さんとの交流会ということで、とても楽しみにしていました。私は「ヤマモモ」を切った後の枝の処理を行いました。最初は山積みになっていた大量の枝も、力を合わせれば一時間半という短い時間で片付けることができました。友達と話に花を咲かせながら作業に打ち込むなかで、次第に黙々と作業するようになった愛附生がほとんどで、流石だなと改めて思いました。先生と特別支援学校の男子生徒が、二人だけで大きな丸太を切ったときに握手をして「やったな!」と喜び合う姿が印象的でした。豪華な豚汁やお弁当もおいしくいただきました。来年も是非参加させていただければと思います。特別支援学校の先生方もたくさん話しかけてくださり、「来年の愛附祭行くね!」などの温かい言葉もいただき、良い交流ができたと感じました。

## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成29年2月24日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年生

・今回の活動を通して、普段なかなか交流することのない特別支援学校の生徒のみなさんと関わることができて、とてもいい機会となりました。とても天気の良い日に一緒に汗を流しながら活動をして、一緒にご飯を食べて交流して、貴重な体験をすることができました。初めはどのように接すると良いのかと心配もありましたが、話してみると、そんな心配はかき消されました。また、このような交流の機会があれば、是非参加させていただきたいと思います。

・交流活動を終えて、とても貴重な体験だったなと思います。普段あまり接することのない人たちと一緒に作業する中で、自分から話しかけたり、話しかけてくれた人におどおどすることなく、受け答えができたのでよかったです。みかんの家にいたお母さん方も、てきぱきと指示を出してくれたり、私も積極的に行動できたり、いつもとは違う場所でもしっかりやれたと思います。来年もし受験が終わったら行きたいと思いました。

・私自身「みかんの家」の交流が初めてだったので、特別支援の方にどう接してよいか分からず、とても緊張していましたが、いざ作業が始まると自然に打ち解けることができたのでよかったです。私は、溝掃除係だったのでかなり体力を使いましたが、お互いに励まし合いながら作業を進めることができたので、とても楽しくできました。驚いたのは特別支援学校の皆さんの前向きさです。弱音を吐くどころか、「私がやります！」と積極的に参加してくれました。決して楽な作業ではなかっただけに、すごいなと思いました。

・初めて「みかんの家」に参加しましたが、なかなかこういう交流はできないのでとても良い経験になりました。二年生になってから今まで、学校の授業科目の「生活総合B」で、特別支援学校の人たちと交流を何度もしてきました。ですが、交流できるのは一部の先生方と高等部の人たちだけだったので、今回高等部以外の人たちやたくさんの保護者の方々とも交流ができて良かったです。私は中等部の子とペアで溝掃除をしましたが、進んで自分で泥のあるところを探して一緒に掃除をすることができました。他の生徒生徒とも掃除をして多くの人と関わりました。その中で生徒の皆が声をかけ合ってコミュニケーションを大切に作業をしています。また、ペアの子が周りをよく見て、シャベルや鍬、長靴を他の子に貸したりと気配りも多かったです。作業をした後は昼食は格別でした。

・「みかんの家」の方たちは、とても優しく親切でした。高等部の子とも仲良くなれたような気がします。とても天気がよくてぼかぼかでした。心が温まったような気がします。とてもいい経験になりました。

・自分は高校に入って一度もこのような交流に参加したことがなかったので、参加してみようと思いました。附属特別支援学校さんとは夏休みのときに吹奏楽の方で運動会に参加するぐらいでした。人見知りだったので、このような交流をするのは少し不安でしたが、実際やってみると同級生も多少いたこともあり、あまり緊張もせずに活動を行えました。このような活動が行えるのがこの高校の強さでもあるので、また参加したいと思いました。

## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成29年2月24日

学校名 愛媛大学附属高等学校 保護者

・快晴の空の下で、生徒達と協力をしながらみかんの家の周囲を清掃しました。初めて交流を図るお互いの学園の生徒達は、慣れない作業で戸惑いながら少しずつ作業をしていました。時間が経つにつれ、打ちとけ合い、作業をお互いに分担しながら、効率よく作業が進み、目的のある交流活動ができたと思います。青い空の下で清掃という同じ目的を持つ子ども達は、私が思ったよりもお互いに声を掛け合い、相談しながら作業を進める姿を微笑ましく見ることができました。大人の私達も慣れない作業で心地よい疲労感を感じながらお昼の食事を子ども達と共にでき、良い経験となりました。誇るべき行事が今後も途切れることがないように続けていかなければなりません。

・お役に立てたかどうかはさておき、純粹に自分が楽しめました。調理と食事場所の準備などをお手伝いさせていただきましたが、普段ではなかなか接することのすくない他学年の子と話をしたり、支援学校の生徒さんに野菜の切り方を教えたり……と、楽しく過ごさせていただきました。バスの中でも、生徒の自然な姿を見ることができてうれしかったです。マイスターの方とお話をさせていただいたのですが、小・中の附属と違って、附属高校の生徒、保護者と話をする機会が少ないので、このような場はとても貴重だとおっしゃっていました。私も、学校外でのこのような交流は子どもたちの成長に必要なことで、せっかく「附属校」というつながりがあるのだから、このような機会が増えると良いなと思いました。

・天候にも恵まれ、良い活動になったと思う。生徒同士は、同じ作業を協力して行っていくなかで、お互いの気持ちもほぐれて、言葉を掛け合いながら取り組んでいく様子が、ほほえましく思えた。このような機会は、本当に大切なものは何かを改めて教えてくれる。良い経験をさせていただきました。

・生徒さんたちの笑顔を見ながら、こんなにも自然に交流はできるものなんだと改めて感じました。作業交流ということで、はじめは正直、何か協力できことはあるのか不安でしたが、実際に取り組んでいくなかでその不安は吹き飛びました。特別支援学校の生徒さんや高校生と協力して作業をしていくうちに、自然と会話も弾むようになりました。今回の特別支援学校さんとの交流の機会は本当に良い勉強になりました。